ISSN 1347-6211

東北大学

東北大学史料館だより

No.28
2018 Mar.

TOHOKU UNIVERSITY ARCHIVES NEWSLETTER

写真：北門改造前（2002年）／改造後（2012年）

片平キャンパスリニューアル

片平キャンパス北門周辺について、2010年頃から大改造を行ってきました。ブロック塀を撤去して一番町通りと連続したオープンなフロントとし、入ってすぐ右手の廃墟化した建物は外壁を保存しながら内部を改築して最先端の研究施設に、手前の倉庫のような食堂はガラス貼りの明るいレストランへとリニューアルしました。勿論キャンパス内部においては、この他にも大小様々な改善整備が行われてきたわけですが、こうした長年に渡る環境整備の実績が認められ、片平キャンパス地区は2017年度の都市景観大賞「都市空間部門」特別賞に選ばれました。仙台市内では「定禅寺通り」に次ぐ６年ぶりの、そして大学キャンパスとしては全国初の受賞となります。

Index

2 もう一つのアーカイブ
～片平キャンパス計画の記録～
東北大学キャンパスデザイン室
特任教授 杉山 丞

5 渡欧中の法文学部教官と
初代法文学部長
東北大学史料館教育研究支援者
清水 翔太郎

6 資料の公開について
史料館のうごき

8 企画展開催報告

もう一つのアーカイブ
～片平キャンパス計画の記録～

東北大学キャンパスデザイン室特任教授　**杉山　丞**

本稿では、片平キャンパスに残る建造物そのものの歴史ではなく、キャンパス計画の変遷にスポットを当ててご紹介したいと思います。

キャンパス計画前史～最初のキャンパス計画まで

東北帝国大学の創立は1907年ですが、仙台（片平）に初めて校舎が作られたのは４年後の1911年のことで、第二高等学校（以下二高と略す）のグラウンド用地を譲り受けて東北帝大理科大学が発足します。この時点で、片平キャンパスには、二高と東北帝大、それに仙台医学専門学校（以下医専と略す）、仙台高等工業学校（以下 SKK と略す）の４つの高等教育機関が割拠し、複雑に敷地をシェアしていました（図１）。

翌12年に医専は東北帝大医学専門部となり、15年には医科大学として星陵の地へ転出、25年には二高が雨宮の地へ転出することとなり、東北帝大は七軒丁通り以北の片平キャンパス全体を利用することができるようになりました。

記録に残る最初のキャンパス計画は、二高の転出に伴い、それまでの両者の敷地境界近くに新たな正門と松並木の大路を作り、その東端に本部棟を置き、大路沿いに附属図書館や書庫、新しい研究棟などを整備するというものでした（図２）。

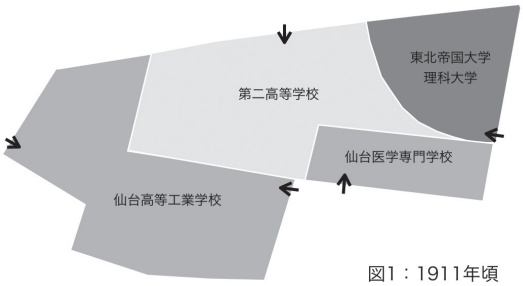


図1：1911年頃

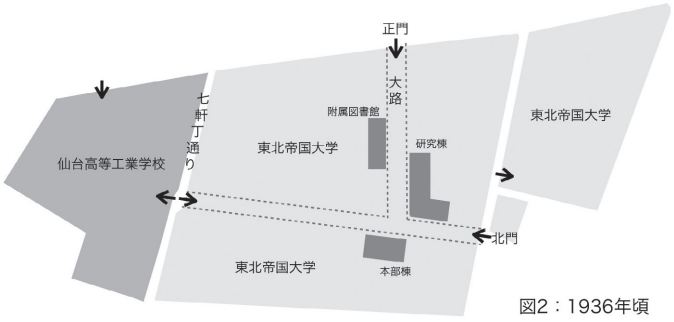


図2：1936年頃

この計画は創立25周年式典が行われた1936年頃にほぼ完成しますが、その後空襲による被害を受けながらも、キャンパスの骨格はそのまま新制東北大学へと受け継がれていきます。

川内青葉山への移転と再開発計画

その後、学生数の増加に耐えきれずに川内青葉山地区へと全面移転しますが、片平は売却されることなく、市内に分散していた研究所群と大学本部機能の受け皿として残され、1988年に再開発計画が作成されます。その計画では、史料館など数棟のみを残してその他の歴史的建物は全て解体されることになっていました（図３）。

これが92年より予算化され工事に着手していきますが、歴史的建物の解体が始まる寸前の94年に、今度は片平キャンパスを売却して青葉山新キャンパスへ移転する構想が浮上し、再開発計画は凍結されます。

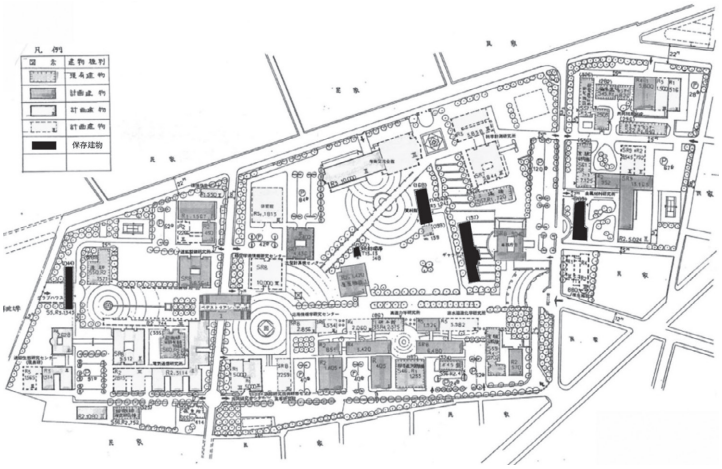


図３：1988年 片平再開発計画図

保存運動の盛り上がりとマスタープラン

歴史的建物の解体は奇跡的に免れたものの、今度は売却後の近代建築の行く末を危惧する声が高まり、市民有志による「片平たてもの應援團」や「片平キャンパス近代建築トラストファンド」などの団体が誕生し、保存運動が始まります。

こうした市民の声もあと押しとなり、2002年には片平キャンパスを全面売却する方針が見直されるとともに、当デザイン室の前身であるキャンパス計画室が中心となり、仙台市や市民団体の方なども含めた検討 WG を立ち上げ、「近代建築の保存方針案」を策定して大学評議会での承認を得、引き続き2007年に作成した「片平キャンパスマスタープラン」(図４）に基いて、今日まで一貫した保存と整備が進められてきました。

このマスタープランの特徴は、単に新しい建物や道路を書き足した計画図ではなく、これまでに蓄積された歴史的ポテンシャルをさらに高め、より安全・快適で、地域に開かれたキャンパスにリニューアルしていくための「改善計画」を基本にしたことでした。

図４：2007年 片平キャンパスマスタープラン

具体的改善事例

①歴史的建物をほぼそのままリニューアルした事例としては、旧東北帝大理学部化学教室を転用した大学本部棟や、魯迅の階段教室、旧医専校舎、煉瓦造の文化財収蔵庫、旧 SKK 棟などがあります。

②次に、建物の強度不足などから、歴史的建物を大手術して保存した事例としては、見えないところに補強を施した史料館や、旧東北帝大工学部金属工学教室の外壁をそのまま保存しながら改築した WPI-AIMR 本館（写真１～３）、一度解体した後に外壁を復元した知の館などがあります。

写真１：整備前

写真２：外壁保存工事（2011年）

写真３：整備後

③新規建物については、歴史的建物の特徴である「茶色のスクラッチタイル（表面に凹凸のあるタイル）による壁柱」を連続させることを共通のデザインルールとして、さくらホール（2005年）、エクステンション教育研究棟（2010年）、電気通信研究所本館（2014年）などが建てられました。

④戦後建てられた既存棟の改修においても、「茶色のスクラッチタイルによる壁柱」を設備シャフトを兼ねて取り付け、壁面を茶系に塗装することをルールとし、多くの建物が歴史的建物と調和のとれたデザインにリニューアルされました。（写真４～５）

写真４：改修前

写真５：改修後

⑤北門周辺については、2012年に塀を撤去して歩道を広げ、黒いアスファルトから茶系の小石を混ぜた透水舗装とし、ベンチや外灯、サインを整備してポケットパークのようなフロントに一新しました。そして、このオープン化に前後して、一番町通りに面した飛び地に、ガラス張りのオープンな食堂や売店などからなる片平北門会館を整備したことで、食堂の明かりや賑わいが通りに活気を与えるなど、キャンパス内外を繋ぐ、大変魅力的な都市景観となりました。（表紙写真）

⑥また、正門からの軸線を受ける東端の建物が、これまでは木造２階建てだったために、後ろに聳えるSS30がキャンパスの景観に支配的な影響を与えていましたが、６階建てに改築するとともに、正門軸を受け止める形でシンボルタワーを設けたことで、落ち着いた環境を取り戻すことができました。（写真６～８）

写真６：改築前

写真７：景観シミュレーション

写真８：改築後

⑦さらには、無料だった片平キャンパス内の駐車場を有料化したことによって、通勤通学車輌が５年で３割も減り、より安全で歩行者優先のキャンパスへと大きく前進しました。

都市景観大賞受賞と登録有形文化財への登録

こうした長年に渡る環境整備の実績が認められ、「東北大学片平キャンパス地区」が2017年度の都市景観大賞「都市空間部門」特別賞に選ばれました。仙台市内では「定禅寺通り」に次ぐ６年ぶりの、そして大学キャンパスとしては全国初の受賞となります。

昨年10月には、本学と仙台市の共催で、受賞を記念した「杜の都・景観シンポジウム」が開催されました。市民団体で活動されていた方や町内会の方にも参加頂くことが出来、片平キャンパスの景観整備が仙台という街の魅力を高めているという主旨のご意見を数多く頂きました。

また、仙台には、大崎八幡など江戸期の遺構は残るものの、明治～大正～昭和初期の歴史を今に伝える貴重な近代建築は、残念ながらここ片平周辺にしか残されていないと言っても過言ではありません。その貴重な歴史的遺構を今後も守り続けていくという大学の意思表示として、片平キャンパスに残る近代建築５棟を「登録有形文化財」として昨年７月に申請し、受理認定されました。

最後に

片平キャンパスは近代建築の宝庫であるだけでなく、学都仙台発祥の地であり杜の都の原風景と言える貴重な屋敷林の残る場所でもあります。大学として、市民共有の財産である歴史的建物や大樹を保存していくだけでなく、市民がその建物に接し、気軽に利用することで新たな「学都」のページが開くことに繋がるような利活用の工夫も求められていくことでしょう。

煉瓦造の文化財収蔵庫が美味しいワインの飲めるイタリアンレストランになり、大型の近代建築が大学博物館やホテルに変身する日もそれほど遠くないかもしれません。

渡欧中の法文学部教官と初代法文学部長
―佐藤丑次郎旧蔵絵葉書より―

東北大学史料館教育研究支援者　**清　水　翔太郎**

佐藤丑次郎

創設期の法文学部の教官というと、小宮豊隆や阿部次郎などが有名ですが、その礎を築いた初代法文学部長佐藤丑次郎についてはあまり知られていないかと思います。佐藤に関する史料は多くはないのですが、ここでは487点に及ぶ旧蔵絵葉書を紹介します。

佐藤は第二高等学校を卒業後、明治32年（1899）、京都帝国大学法科大学政治学科に一期生として入学しました。明治39年に助教授となり、政治学、政治史の講座を担当します。明治41年から３年間、ドイツ・フランス・イギリスへ留学し、帰国後教授となりました。大正９年（1920）、東北帝国大学法文学部創立委員長となり、同11年９月、法文学部憲法学講座教授として仙台に赴任します。法文学部長を昭和５年（1930）まで務め、昭和14年３月に退職しました。

佐藤丑次郎旧蔵絵葉書は佐藤宛のものが422点と大部分を占めますが、佐藤が留学先から妻に差し出したものが63点、次男宛のものが１点含まれています。仙台赴任後のもの89点の中には、大正の終わりから昭和の初めにかけて、ヨーロッパに留学していた法文学部の教官（候補者も含む）たちから差し出されたものも40点あり、それらの一部を紹介したいと思います。

絵葉書①

佐藤に絵葉書を差し出した教官は、石田文次郎（民法学）の５通が最も多く、その他19名が近況を報告しています。留学先で行動を共にすることも多かったようで、連名の絵葉書もいくつかあります。久禮田益喜（刑法学）と高橋里美（哲学）は、ともにドイツのハイデルベルク大学で学びましたが、絵葉書①（「佐藤丑次郎旧蔵絵葉書」1-104）で到着したことを報告しています。ハイデルベルグ大学は、佐藤が法文学部の制度設計の参考にしたとされ、哲学の講師としてオイゲン・ヘリゲルを招くなど法文学部とは深い結びつきがありました。高橋は新カント派の哲学者ハインリヒ・リッケルトの講義を受け、久禮田は法学部長のグラーフ・ワードーナギ（ママ）などに会ったと報告しています。彼らはヘリゲルの友人ファウストに宿の世話をしてもらい、ひとまず共同生活をしていたようです。両人は田岡良一（国際法学）とともにパリからも近況を報告しており、留学先で同志と談笑した喜びが伝わってくる絵葉書もあります（「佐藤丑次郎旧蔵絵葉書」1-211）。

ロンドンに留学していた堀経夫（経済学）も中川善之助（民法学）と金倉圓照（インド学）に面会したことを報告していますが、そこでは図書館用書物の代金が書店に届いたことも記されています（「佐藤丑次郎旧蔵絵葉書」1-156）。教官たちは留学先での集書も重要な任務としていたので、絵葉書で報告することもありました。絵葉書②（「佐藤丑次郎旧蔵絵葉書」1-180）は、堀がロンドン到着後間もなく差し出したものですが、大英博物館の図書室の出入りを許可され、目的の書物が悉く備わっていて愉快だと報告しています。また古書店に経済学史用の書物を200冊余探させていて、集まり次第送るので、送金を依頼しています。和田佐一郎（経済学）が購入した書物のリストの送付依頼をしていることから、重複しないように心がけていたこともわかります。

絵葉書②

このような絵葉書を通して、教官たちが最先端の学問に接していること、また集書活動に励んでいることに佐藤は満足していたのではないでしょうか。

資料の公開について

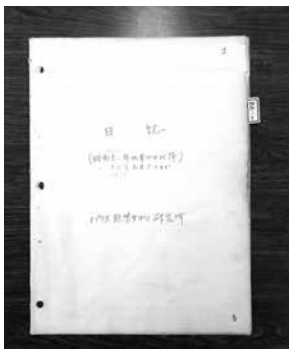
◆個人文書

①小川正孝資料

東北帝国大学理科大学初代学長で、後に４代総長となった小川正孝の「ニッポニウム」関連資料です。X 線スペクトル写真乾板など全20点で、平成25年（2013）に日本化学会より化学遺産（第018号）に認定されています。

②パラオ熱帯生物研究所関係資料

畑井新喜司（理学部生物学教室教授）の提案により、日本学術振興会が珊瑚礁生物学の研究を目的として設立したパラオ熱帯生物研究所の関連資料です。研究所は昭和９年（1943）に設立され、昭和18年３月に廃止されましたが、その間研究員が記した日誌や研究所の構成員による岩山会の会報などが含まれています。



③理学部化学教室関係史料

理学部化学教室で保管されてきた史料で、植物写真など有機化学系の史料が多く含まれています。東北帝国大学理科大学教授で、戦前期日本を代表する有機化学研究者である眞島利行（1874～1962）の関係史料も含まれています。

史料館のうごき（2017年９月～2018年３月）

◇博物館実習を受け入れました（９月19日～９月22日）

東北大学総合学術博物館、東北大学植物園および当館で担当している「博物館実習Ⅵ」の一環として、受講生11名が当館で実習を行いました。実習では、展示室レイアウト変更に伴う展示物の撤収及び再展示作業を行いました。また歴代総長の紹介パネルを作成し、21人の総長を紹介するコーナーを戦前、戦後に分けて２ヶ所設置しました。

◇展示室レイアウト変更を行いました（９月20日～22日）

東北大学キャンパスデザイン室の協力のもと、常設展示室を中心にレイアウト変更を行いました。展示ケースの配置を変えるなどして、導線をわかりやすくするとともに、競漕用エイト「萌野」の全貌をご覧いただけるようになりました。あわせて常設展示の展示替えも行い、歴代総長のコーナーや東日本大震災の復興対応のコーナーなどを設けました。

◇医学部医学科１年生が見学に訪れました（９月26日・28日）

東北大学医学部医学科１年生が導入教育（担当：医学教育推進センター石井誠一准教授）の一環として、史料館及び片平キャンパスの見学に訪れました。展示室の他、魯迅の階段教室などを案内しました。

◇東北大学附置研究所等一般公開「片平まつり2017」を開催しました（10月７日・８日）

隔年の恒例行事「片平まつり2017　おどろき！はっけん！科学ワンダーランド」が片平キャンパスなどを会場として開催されました。当館では「たてもの　たんけん　しりょうかん」と題し、開催中の常設展・企画展の公開の他、特別企画として学生服・マントや角帽を着用してかつての大学生の気分を味わえる「むかしの学生に変身」、当館新キャラクターふみくんが出題する東北大学にまつわるクイズを解き、全問正解者に“東北大学歴史博士”の合格証を授与する「めざせ！東北大学歴史博士」を実施しました。また、ローマオリンピックに出場した東北大学エイトの記録にエルゴメーターで挑戦する「マシンボート体験」を漕艇部の協力のもと実施しました。恒例の「片平キャンパス歴史散歩」は「仙台・宮城ミュージアムアライアンス（SMMA）」が企画する「SMMA 見験楽学ツアー」とのタイアップもあり、両日ともに開催しました。また初日には、特別企画「30分でわかる科学の不思議シリーズ」で加藤諭准教授が「片平の建物の不思議―東北大学110年のあゆみ―」と題して報告しました。

片平まつり2017
部局キャラクター
ふみくん

東北大学の歴史にくわしい。
性格：古いものを大切にする。

◇川内キャンパスのむかしむかしⅠ～仙台城跡二の丸～を開催しました（2018年１月15日～２月９日）

学内連携の企画展示として、東北大学埋蔵文化財調査室企画「川内キャンパスのむかしむかしⅠ～仙台城跡二の丸～」を当館第１展示室にて開催いたしました。川内キャンパスは、江戸時代には北側が武家屋敷、南側は藩主の居館であった仙台城二の丸となっていました。本展示では、川内南キャンパス内での発掘調査の成果として、肥前磁器など二の丸跡からの出土品が多数出展されました。

埋蔵文化財調査室とは、川内萩ホールでの「かわうち今昔物語」の共同展示を連携して行ってきましたが、当館における企画展示は初の試みとなりました。

◇星寮のおひな様を特別公開しました（２月16日～３月20日）

東北大学病院の看護師寮「星寮」で飾られていた「星寮のおひな様」の特別公開を当館企画展示室にて行いました。寮誌『星影』や入学生アルバムなど関連資料も合わせて展示しました。

◇第６回大学アーカイブズセミナーを開催しました（２月28日）

今年度は附属図書館と共催で「学術資産の利活用とデジタルアーカイブ」をテーマに図書館本館２階大会議室で開催しました。宮本隆史氏（東京大学文書館）が「大学関係資料組織のデジタルアーカイブの可能性」、中村覚氏（東京大学情報基盤センター／学術資産アーカイブ化推進室）が「学術資産等アーカイブズの構築と LOD（Linked Open Data）によるその活用」と題して報告を行いました。

企画展 開催報告

東北大学都市景観大賞特別賞・登録有形文化財記念

「片平キャンパスの過去・現在・未来」

2017年 9 月29日（金）～12月15日（金）　東北大学史料館 2 階展示室

東北大学片平キャンパスは、平成29(2017) 年度の都市景観大賞（主催：「都市景観の日」実行委員会、後援：国土交通省）において都市空間部門特別賞を受賞するとともに、片平キャンパス内の 5 つの建物が国の「登録有形文化財」として登録されました。そこで東北大学キャンパスデザイン室と仙台市の協賛を得て、片平キャンパスの建物の歴史に関する展示を行いました。

キャンパスデザイン室の協力のもと、展示パネルでは文化財収蔵庫（旧第二高等学校書庫）、魯迅の階段教室（旧仙台医学専門学校六号教室）、本部棟 3（旧医専博物・理化学教室）、本部棟 1（旧理学部化学教室）、史料館（旧附属図書館）など、登録有形文化財の 5 つの建物をはじめとした代表的な建物について、建築学の視点から紹介しました。また、施設部所蔵の史料館設計図面の他、片平キャンパスの建物配置図などを展示し、キャンパス全体の変遷と未来への展望を提示しました。

関連行事

「片平キャンパス建物ツアー」

2017年10月 1 日（日）・11月 3 日（金）

登録有形文化財に指定された 5 つの建物を中心に片平キャンパスをめぐる「片平キャンパス建物ツアー」を東北大学総合学術博物館・キャンパスデザイン室・総務企画部広報課と合同で開催しました。各日とも午前と午後の 2 回開催し、86名の方にご参加いただきました。10月 1 日は川内萩ホールを主会場として開催されたホームカミングデーに合わせて企画しました。また、10月28日（土）に片平さくらホールで開催された「杜の都・景観シンポジウム～片平キャンパスから考える杜の都の景観～」(東北大学・仙台市主催）の際にも建物ツアーを実施しました。

巡回展示

2018年 1 月 4 日（木）～ 2 月 9 日（金）
東北大学附属図書館 1 階多目的室

当館での展示終了後、川内キャンパスの東北大学附属図書館 1 階多目的室において巡回展示を開催しました。

東北大学史料館だより　第28号　2018年 3 月12日発行
編集・発行　東北大学学術資源研究公開センター史料館
〒980-8577 宮城県仙台市青葉区片平2-1-1　TEL 022-217-5040
E-mail desk-tua@grp.tohoku.ac.jp　URL http://www2.archives.tohoku.ac.jp/　Twitter @ T_U_Archives